

サイクル理論 構成編

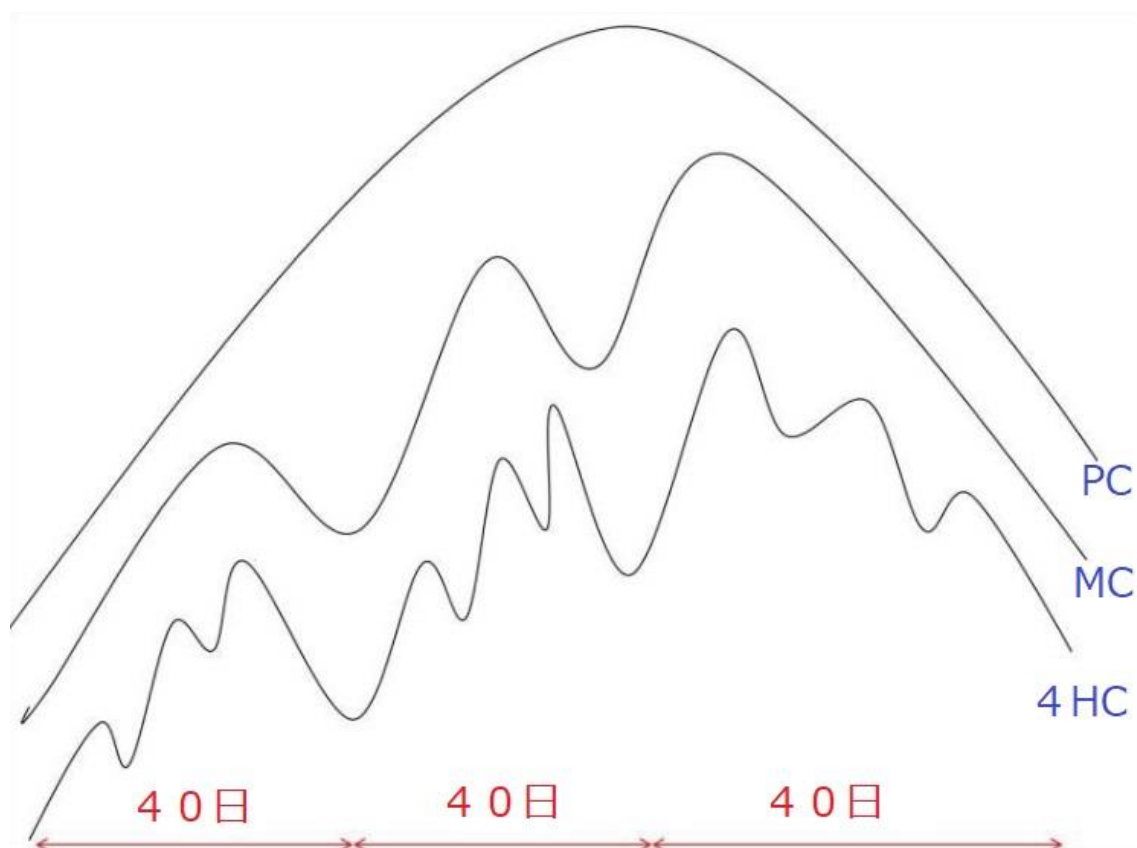
本日は、サイクルの構成での分析です。

サイクルの構成を図で表すとこういう形になります。

外側の大きなサイクルがプライマリーサイクル(PC 週足)

真ん中のサイクルがメジャーサイクル(MC 日足)

内側の小さなサイクルが4H サイクル(4HC 4時間足)



大きなサイクル中に、3つ~4つの小さなサイクルで構成されます。(図は3つで作成しています)

※図は少しズレていますが、各時間軸の一番高いところがプライマリーサイクルトップです。

プライマリーサイクルトップとは、週足の天井になります。

これを見ると、大きな波が小さな波を支配しているのが分かるだろうか！？

相場は大きなサイクルの天井を目指して上昇し、

大きなサイクルの底を目指して下落します。

そして、トレンドは大きな波が小さな波を支配する。しかし、トレンドは小さな波から発生する！

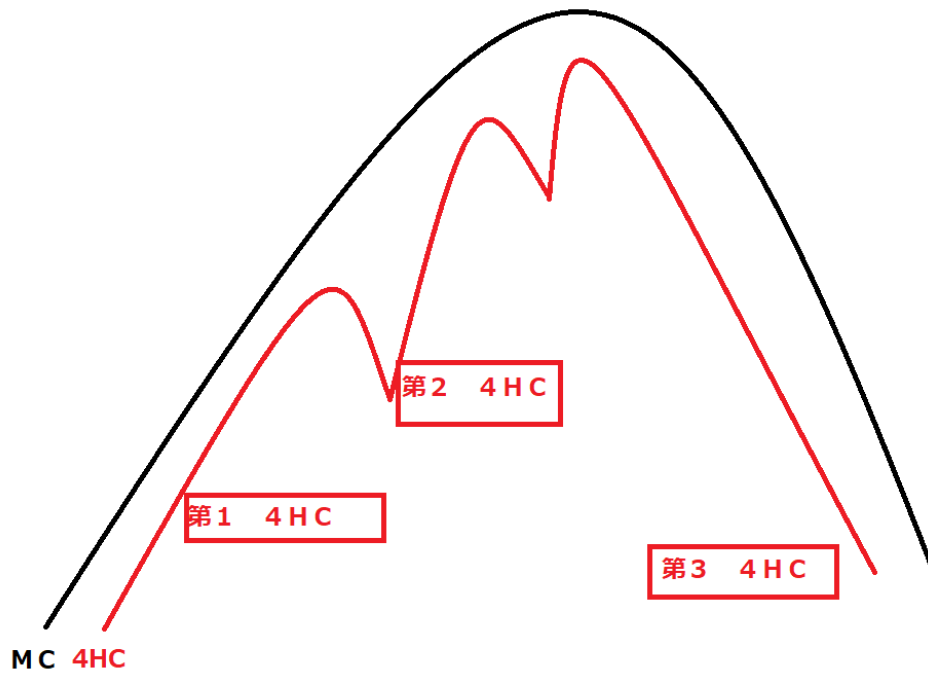
トレンドは短期から変わっていくということですね！

相場は、メジャーサイクルトップを付けたら、4H サイクルはダウントrendに変わり、プライマリーサイクルトップを付けたら、メジャーサイクルはダウントrendに変わります。

上記のことは、必ず覚えて下さいね！

トレードの組み立てのベースになりますからね！

MC



メジャーサイクル(MC)の中に、4H サイクル(4HC)が入っています。

プライマリーサイクル(PC)の中に3~4つ メジャーサイクルが入ります。

1つ目のサイクルを第1 4HC

2つ目のサイクルを第2 4HC

3つ目のサイクルを第3 4HC

と呼びます。

MC の場合は、

1つ目のサイクルを第1MC

2つ目のサイクルを第2MC

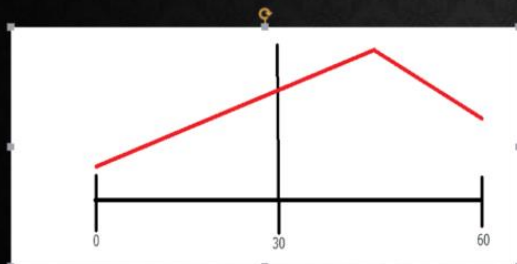
3つ目のサイクルを第3MC

と呼びます！

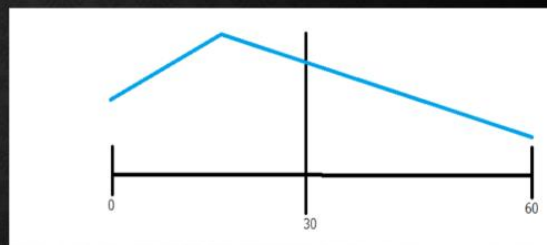
サイクル理論でのアップトレンド、ダウントrendとは！？

★サイクルの形

サイクルには、その形で強気型か弱気型かを判断する法則があります。
強気相場ならライトトランスレーション、弱気相場ならレフトトランスレーションという2種類の形があります。



・ライトトランスレーション(強気型)
サイクルの中心より右側で天井を付けて、
終了点はサイクルのスタート地点を下回らない形。



・レフトトランスレーション(弱気型)
サイクルの中心より左側で天井を付けて、
終了点はサイクルのスタート地点を下回る形。

サイクルでのアップトレンド、ダウントrendとは

そのサイクルの起点(スタート地点)より、終了地点(底)が高いか低いからです！

上昇トレンドなら、アップ→アップ→ダウン！アップ→アップ→ダウン、、、のリズムの繰り返しをイメージして下さい。

下降トレンドなら、アップ→ダウン→ダウン！アップ→ダウン→ダウン！のリズムの繰り返しをイメージして下さいね！

4h サイクルが一番小さいサイクルとします。

4h サイクルより小さいサイクルは勿論ありますが、トレードにおいては不向きなので

4h サイクルを最小サイクルと仮定します。



日足チャートです。
 メジャーサイクルの構成です。
 3~4つの4hサイクルで構成されています。



週足チャートです。
 プライマリーサイクルの構成です。
 3~4つのメジャーサイクルで構成されています。
 構成で何が分かるかと言うと、アップトレンドなのかダウントrendなのか予測できます。
 プライマリーサイクルがアップトレンドを形成するのである相場なら、メジャーサイクルは第1 アップトレンド→第2 アップトレンド→第3 ダウントrendという予測ができます。
 構成は分析というより、相場の把握と各サイクルの関連性ですね。

各サイクルは全く別物ではありません。

プライマリーサイクルボトムと 4h サイクルボトムが別々の時間に出現しないですし、メジャーサイクルボトムとプライマリーサイクルボトムも別々に出現しません。プライマリーサイクルボトムは、メジャーサイクルボトムも 4h サイクルボトムも同じレートの安値になります！
以上がサイクルの構成についてです。